

参院選挙談義

(巷間で聞いた対話)

三川指導部原万田地域分會新聞「こぶし」(NO.8)から
この事実見よ
組合員・家族の皆さん、炭鉱労働者にとつてこんどの参議院選挙が、特に重要なことは次のような事情からもわかるでしょう。

昭和三十四年に、わが国の石炭生産目標(実績も)五十五万トンで、炭鉱労働者が二十万人だったのに、今は前者が二万六千トンで後者が二万八千人。

外国の場合、英国の石炭生産額一億トン(年産)で、総合エネルギー中三六%。西ドイツが一億五千万トンで、アメリカに二億六千万トン。

わが国の場合エネルギー計画中八%に過ぎず、自民政治の失政がここに象徴されています。

A—今度の参議院選挙についてあんなに、どう思うね。
B—三たび物価の上昇が、これをささえるためにも革新が勝たなければいけません。だつと、保守逆転が叫ばれているのに、実際には革新の力は真に共闘していないので、また弱いのではないか。

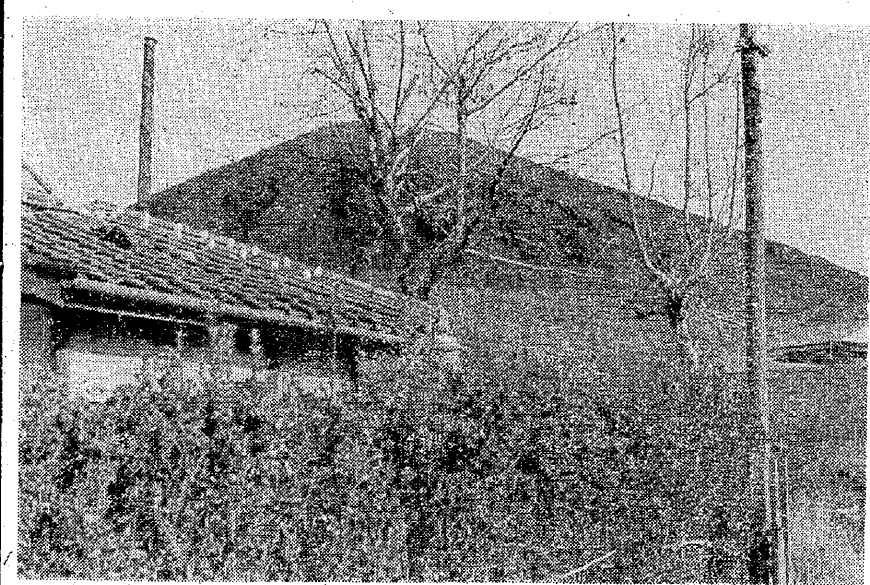
C—物価狂騰の張本人の大企業の使用人が、自民党だ。いつまでもさばらせては、生活が破かいされてしまうよ。

B—たとえ野党が共闘しても、自民党にいつてかわるだけの力量がないのではないか。

C—一般市民は海外政治に関心があつたのでそのように感じるが、組織労働者は、自分たちが自民政治が政権をとつても、労働者の利益を守ると、力いっぱいやると思う。

A—もう積極的な行動に移るべきだし、おそくはないだ。自民党はじやんじやん動いてるし、私たちが通りいっぺんの票読みでなく、確実に一票でも多くとるようにはがらなくちゃあ。

C—保守逆転を口先だけでなく、足でいこうじゃないか。
B—物価を下げさせて生活を守るために、もうさつぱり行動を



会社の賃金展開に反対する

上るのは生産ばかり

鼻先にニンジン方式やめよ

炭労の期末手当闘争が、参議院議員選挙とからみ合いながらすすんで行くが、その期末手当闘争を前に、三池では賃金展開のいま、賃金展開に対する会社のいっそうの改悪が問題化してきており、新労組もよく職場にいかりかたがたっている。

各新聞の、賃金展開に対する要求・主張例には、次のようなものがある。その点ではインフレ、物価値上げ反対の闘いをこれからは続けていかねばならないと思ふ。

四山「坑外」

今年の春闘が、七十四国民春闘といわれ、国民的性質を帯びた闘いであつたからといえます。しかし田中内閣は、物価値上げにならざるを得ないばかりか、電力料金、私鉄運賃など公共料金の値上げを認めようとして、給にいたるよう要求しています。

四山「とりで」

春闘は一万四千四百円で妥結しました。ところが従来までは四月一日から九月三十日まで、R計算により坑内と坑外に分けて、一率に支払われていた差額分を、「採炭・掘進」「坑内C級者」「坑内B級者」「坑外員」に分けて支払うという。

小選挙区制反対申し入れ

【連色】社、共、公三党、総評などによる「小選挙区制反対中央連絡会議」(二百三十三団体)の代表は五月十五日、最近の首相発言にみられる小選挙区制実現を目指す動きに対して「憲法と議会制民主主義への攻撃であり、許せないと、政府に絶対反対を申し入れた。このあと「小選挙区制が国会に出される前に粉砕しよう」

またこのことは、「生産をあげれば賃金も上がる」ということがいかにまかしの理論であるか、を示しています。

満ちのべています。十月一日から賃金展開された場合、標準作業量が勝手に操作されるので、実質賃金の大幅引き下げが予想されます。

四十七年の十月と、四十八年の十月の賃金を比較すると、三池は一七%の上昇(基準内)、他の炭鉱は平均三四%の上昇を示しています。三池の標準作業量が、他山に比していかに高いかを物語っています。

宮浦「つどい」

新賃金展開になると例年通り、賃金の値上げは二割行つたのか影も形もなく、操作により上に厚く下に薄くなる慣行。これをみんなの力で平均一律支給運動を展開し、みんなの努力で賃上げを苦しい生活のカチとして生かそうではありませんか。

四山指導部職場新聞「とりで」



会社が賃金展開のぞみをかけているのは、いわずとしたこと格差をエサに、採炭・掘進に、どうしても不足した労働力を集めることで、それだけでも許される非民主的・非人間的なやり方であるばかりでなく、それはそのまま労働現場における以上の人員不足を呼び、このうえに坑内保安を危機に追いやる道に直結しており、三池炭鉱労働者の前に重大問題を提起している。

この怒り
忘れることなく
福島 渡部俊夫
同 さい子



過日宮島 生き生きとした社会主義思想がさん宅を訪 脈々と流れているのを感じ、逆問した際には、私達の方こそ勇気づけられた。私自身、返す言葉もなく、怒りの涙と共にふるふる手をさしのべ、「重信さんの死は決して無駄にしません。精一杯頑張ります」——ただただ、それだけがせいはいひでした。

て、南九州への新婚旅行に出かけたわけだ。当初、新婚旅行の途中などに訪問することをたいへん恐縮しておつたわけだが、せつかくの機会です。それ以上に、宮島さんの死に対して心からおくりあげた、足をのぼしたのたしだいでした。

宮島さんが亡くなったのはニュースを初めて聞いた時は、大きなショックを受けた。と同時に私自身、なんと言葉でいい表わしてよいかかわらないくらい、いきなりを感じました。

それは今まで、労働出版局等により、宮島さんが十一年間もの永きにわたり、病院のベッドの上から、独立資本の本質である「人殺し」を、植物人間となりつつも私達の先頭に立って告発し続け、闘ってきたのを知っていました。

宮島さん宅を訪れ、富太郎さんとインさんの、御夫婦の、あの怒りに満ちた言葉のひとひらとつが、今もって私達の胸にグサッと突きささっている感じがあります。

母親インさんの、「世の中を變えなければならぬ」「と、さうあの力強い口調の中に、私は

みいけ編集部